天文七戊戌
四月五日　　元　眞　在判

總持寺
納所禪師

○

【總持寺文書】　一二七八

能登國鳳氣至郡大屋庄三井上村之内地藏院分、爲二觀泉寺殿御入牌一、永代令二寄進一之者也。仍狀如レ件。

天文七戊戌
四月五日　　元　眞　在判

總持寺
納所禪師

六月八日。本願寺證如、飛驛照蓮寺に、加賀の一揆洲崎兵庫等の通過を許したるを詰問す。

【照蓮寺文書】　飛驛　一二七九

御狀之趣委細致二披露一候。抑今度賀州錯亂之儀者、洲崎(兵庫)・河合(八郎左衛門)兩人所行候間、加州罷退候。然間號二訴訟一其方へ罷越候處、路次不レ可レ有二相違一之由、惣鄕被二申定一候儀不審候。其方之御意得行候故候哉。又者奥修理亮申候通、御狀斗之儀候(之衍カ)之者不レ能二御信用一候由尤候。乍レ去今度惡行之段無二其隱一候條、可レ有二御遠慮一事候歟。就中双方相止、此方へ可レ有二御注進一覺悟候者、被二人付一、不二罷通一候樣可レ有二御調談一之處、夜中罷出候由被レ申候者、悉皆御同心候哉。此等之旨被レ仰(詞)出(如)候。恐々謹言。

(天文七年カ)
六月八日　　賴(下問)　信　在判
玄　賴　在判

照蓮寺
御返報

(洲崎・河合等が若松蓮悟に黨して本願寺に反抗せるは天文六年八月に在るを以て、本文書をその翌年と推定せり。)

六月廿五日。足利義晴、能登守護畠山義總に、その年始の禮物を贈れるを謝す。

【御内書案】　一二八〇

爲二年始禮一、太刀一腰・白鳥一・海鼠腸百桶到來、目出候。猶常興(天館)可申候也。

(天文七年)
六月廿五日　　在(足利義晴)判

畠山修理(義總)大夫入道どのへ

九月廿三日。能登守護畠山義總、足利義晴に背腸及び鯖子を贈る。

【古簡雜纂】　一二八一

天文七十廿
背腸・鯖子各五十桶致二進上一候。可レ然樣可レ有二御披露一候。恐々謹言。

九月廿三日　　悳(畠山義總)胤

大館伊豫(常興)入道殿

九月廿八日。本願寺、幕府料所能美郡德久村をして、伊勢貞孝代相國寺興禪軒使僧にその年貢諸公事を交付せしむ。

【古文書案】　一二八二

御料所賀州德久村事、去々年被二仰下一候處、于レ今不二事行一云々。太不レ可レ然。所詮早如二先規一、年貢諸公事物等已下、可レ沙二汰渡一勢州(伊勢貞孝)代相國寺興禪軒使僧一、聊不レ可レ及二異儀一之旨堅被二仰出一候也。謹言。

天文七九月廿八日　　蓮(下問顯慶)秀

當所名主百姓中

○

【古文書案】　一二八三

御料所賀州德久村事、勢州(伊勢貞孝)號二代官一、近年所務等市川彦左衞門尉令二抑領一云々。於二事實者以外次第也。所詮年々至二御公用一者、爲二市川一勢州へ可レ致二算用一。至二代官職一者、横川三勝軒被二申付一上者、年貢諸公事物等嚴重可レ有二御沙汰一候。聊不レ可レ有二異儀一之旨、堅被二仰出一由事。

(天文七年)
九月　日

當所名主百姓中

天文八年　己亥　紀元二一九九

正月。了覺坊行家、石川郡白山宮莊嚴講所に、